

第十二期（2023年度）事業報告書

（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

法人の名称 特定非営利活動法人 アーモンドコミュニティネットワーク

多様な個性・文化・価値観を持つ人々が生きるコミュニティの中には人と人を隔てる様々な問題があります。隔ての中垣を越えてところを支え合い健やかに共に生きるために、「相手の話しをより良く聴くこと」「傾聴」を土台とする人間関係をつくり、市民が孤立することのない共生の社会と平和なコミュニティの実現に寄与することを目的に活動をしています。（定款より）

法人ホームページ <https://npoacn.or.jp/>



<事業の成果>

「傾聴を土台とする対話の実践」を発展させました。北欧発のダイアログ（対話）実践の手法を法人の支援活動に取り入れるため、通年で啓蒙と担い手の育成を推進しました。

またこれまで法人事業の利用者に含まれてきたヤングケアラーへの支援に着手しました。

法人活動の受益者総数は昨年度 4,616 名から、第 12 期は 約 178 % 増加の 8,212 名へと拡大しました。

コロナ禍以降、増え続けている不登校児童・生徒への支援と子どもの貧困問題と子どもの権利擁護の問題とひとり親家庭への支援の充実が活動の中で求められ、法人は成果を達成しました。

定期的な「対話ミーティング」**Dialogical Meetings in Social Networks** を支援者同士が持つことで、より良い組織連携と支援方法を作っていくことができました。

協働する都筑区役所こども家庭支援課、横浜市北部児童相談所、横浜市北部学校教育事務所スクールソーシャルワーカー、横浜市北部地域療育センターと民生委員・主任児童委員との対話ミーティングを横浜市独自の施設「地域ケアプラザ」の部屋を借り、「課題を抱える子どものための地域の居場所づくり」を推進する目的で対話の会を行いました。

昨年度から導入した ICT の学習支援 ICT 教材 eboard には、フリースペース利用のこどもたちが意欲的に取り組み、長期の不登校で学習が遅れている中学生の学び直しにも大きな効果をあげました。2015 年に私たち法人は NPO 法人 eboard と協働し、総務省 ICT ドリームスクール学習支援実践モデルづくり事業に、**子どもの貧困と教育課題に取り組む団体**として参加しました。

また、今期は NPO 法人 eboard が開発した「**不登校・子ども支援団体教育プログラム eDojo（e 道場）職員スタッフ研修**」を職員とボランティアスタッフ全員が受講しました。

横浜市の不登校児童生徒数の前年度からの増加率は23.5%でした。(全国22.1%)
コロナ禍による子どもたちの家庭生活や学校活動や社会活動への影響は大きく、不登校の問題がさらに拡大した一年でした。

私たち法人は神奈川県教育委員会と横浜市教育委員会の「不登校相談会」で、教育委員会と連携するフリースクールとして2015年以来継続して相談を担当しています。

不登校件数の増加は、コロナ禍による生活環境の変化や不登校に対する保護者の意識の変化などが背景として考えられています。子ども達、一人ひとりに合った安心できる居場所と個別の学びを提供できる多様な支援が必要とされています。

<表彰>

令和5年11月14日

(社福)横浜市社会福祉協議会より地域福祉の向上と発展に多大な貢献を成した功績に対し会長表彰を受けました。

<推薦>

令和6年1月25日

横浜市健康福祉局と子ども青少年局より推薦を受け、令和5年度(一社)生命保険協会神奈川県協会から福祉募金の寄贈を受けました。

<法人拠点での傾聴と対話実践事業の成果>

「対話のこぼ実践セミナー」と「傾聴研修」を通年で毎月3回実施し、年間27回324名が北山田法人拠点での対話実践研修(ワークショップ)に参加しました。

<法人代表が登壇,担当した講演会・セミナー・研修会の増加>

- ・神奈川県立青少年センター主催:
「令和5年度ひきこもり・不登校の子ども・若者を支えるためのボランティア育成研修」
- ・神奈川県立青少年センター主催:
「青少年のためのコミュニケーション講座『聴き上手・対話上手』」
- ・横浜市都筑区社会福祉協議会主催:ボランティアサロン「傾聴研修」
ボランティア活動や身近な人との人間関係に役立つ傾聴
- ・新宿 SOMPO 美術館主催:「美術館ボランティア研修」
関係づくりの基本「傾聴」と深い関わりづくり「ダイアログ実践」
- ・横浜市政策局「都筑リビングラボ」事業:
北山田小学校個別支援級の保護者対象の「傾聴と対話面接」を担当しました。
- ・にしとも西区区民活動支援センター主催:
「傾聴とオープンダイアログ」傾聴講座(活動に役立つ知っておきたいシリーズ)

- ・ 認定 NPO 法人こまちぶらす主催：
『傾聴』を軸に安心の居場所(コミュニティ)を地域につくる!!」
- ・ 横浜市教育委員会北部学校教育事務所「研修生セミナー」
「子どもの貧困と不登校」
- ・ You&Me 精神保健サロン主催：「サロン活動での傾聴ボランティア研修」
- ・ 横浜都筑ロータリークラブ主催：定例会卓話
「子どもの人権を考える～こども食堂・居場所活動での実践を通して～」
- ・ Dialogue for You メンバーと共催：「フィンランド対話研修の旅～振り返りの対話の会」
- ・ Olli Laiho オッリ・ライホ氏セミナー(フィンランド語通訳森下圭子氏)を北山田拠点で開催：
「Early Dialogue (早期対話) セミナー&ワークショップ」

<子育て支援事業の新たな成果>

令和5年4月1日にこども家庭庁が発足し、「こどもまんなか社会の実現」に向けて「こども基本法」が施行されました。

私たちは昨年度に引き続き、今期もこども家庭庁「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業助成」事業を実施しました。通年で、611世帯1992人のひとり親家庭に5717食の食品配布を行なうことができました。

新たに「横浜市ヤングケアラー支援団体補助金事業」(横浜市こども青少年局こども家庭課)を開始しました。法人設立以来事業利用者のこども達に含まれていたヤングケアラーへの支援を北欧発の「対話の実践手法」で取り組みました。

<子育て支援事業の新たな成果>

「アーモンドこども食堂」では、11月から食事の後の時間帯で「こどもの哲学対話」を実践し中高生の参加が継続しています。ファシリテートする支援者自身が「対話の場」で成長していくこどもたちの変化に「ダイアログの実践」の大きな可能性を実感しています。来年度も引き続き、支援の現場での「対話実践」を取り入れていきます。

「アーモンドフードパントリー活動」は、公益社団法人フードバンクかながわと横浜市社会福祉協議会・都筑区社会福祉協議会との連携事業で2021年に開始し、法人のフリースペース利用家庭を中心に毎月北山田で食品配布活動を行ってきました。

2022年度からは、こども家庭庁「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業助成」事業での食品配布活動も継続しています。

また、アーモンドこども食堂にはひとり親家庭の家族参加が増えています。

<新たな展開を達成した事業>

法人のミッションとして、**困難を抱える人が自分のことを安心して語れる「対話の集まり(ダイアロジカルミーティング)」**を地域社会で開いて行くことを目的に、北欧で実践され効果をあげている対話支援」の手法「オープンダイアログ Open Dialogue」と「未来語りのダイアログ Anticipation Dialogue」を、北欧講師から学びながら、不登校・ひきこもり等の課題を抱える子ども青少年支援に生かす試みを開始して5年目になりました。

子ども青少年と高齢者を対象とする都筑区内3拠点での「傾聴と対話を土台とする」居場所支援・生活支援・学習支援に携わるスタッフ（職員とボランティア）は27名になりました。

<北山田アーモンドホープセンター 意味は、
「希望」（アーモンドの花言葉）を生み出す居場所!!>

<取材記事>



・都筑区 NPO 法人情報誌「tsuzuki ANCHOR」第4号に掲載されました。

地域課題に取り組む NPO として、団体の特徴、活動の様子、法人からのメッセージ等の取材を受けました。

< 特定非営利活動に係る事業 >

※事業開催日数と受益者数は最後の表に記載しています。

(1) 子育て支援の推進等に関する事業

「アーモンドフードパントリー（食品食材提供）活動」

こども家庭庁原資「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業助成」で、611世帯1992人のひとり親家庭に5717食の食品配布を行ないました。

ひとり親家庭を支援する地域の民生委員・主任児童委員との連携が進み、困難を抱えるひとり親家庭の登録者数が大幅に増えました。

毎月の活動は、主にフリースペース利用者家庭を対象に、地域の農家、都筑区社会福祉協議会、横浜市社会福祉協議会、横浜労働者福祉協議会、都筑区役所と連携して活発に活動しました。また、(株)タカヨシと寄贈品に関する合意書を交わし、同社の地元の店舗「わくわく広場」から定期的な食品の受取りを継続しました。

地域住民と地元企業からの食品提供等もありました。物価高騰とコロナの影響で困窮するひとり親家庭からの相談が増大し、行政窓口への紹介や必要な専門機関につなぐ件数が増えました。

「アーモンドこども食堂」は毎月第一土曜日年間12回の開催で、こどもと親の参加が272人ありました。

(2) 青少年の健やかな成長の推進等に関する事業

ア 「青少年支援 ‘ともにあ・る・く’ フリースペース事業」

傾聴によるこころの支援、居場所支援、学習支援、相談支援、キャリア支援等。
安心できる環境と人間関係を作り、小中学生から青年期の社会的自立を応援しています。

横浜市北部4区を担当するスクールソーシャルワーカーと連携支援を行ないました。都筑区の全中学校の指導専任教諭と密に連絡を取り合い、居場所を利用する不登校の中学生は在籍校で指導要録上出席扱いとなっています。

北山田アーモンドホープセンターでは、月1回の専門講師を招き、プログラミング学習会を開始し、小・中学生と支援者が楽しく学びを進めました。

イ 横浜市「都筑区寄り添い型生活支援事業 北山田 ‘いっしょにあ・る・く’」

・「横浜市こども青少年局 都筑区こども家庭支援課」委託事業

都筑区在住の小中学生を対象に、(1)日常生活習慣等を身に付けるための支援 (2)安心して過ごせる居場所の提供(3)学校の勉強の復習・宿題等の習慣づけ(4)基礎的な内容の学び直し支援等を「傾聴と対話による支援」を土台に行っています。

・生活困窮者自立法に基づく都筑区区レベルセーフティネット会議（都筑福祉保健センター生活支援課）に関係機関として出席しました。また北部児童相談所主催の連携会議に関係機関として出席しました。また地域の小学校での支援会議に出席しました。小中学校の専任教諭と北部学校教育事務所と基幹相談支援センターとは協働支援を進めています。

・障がい児世帯、ひとり親世帯、外国につながる世帯では経済・心理・健康面で大きな不安を抱える様子が見られ、子ども達が通う地域の小中学校・区役所・専門機関との日常的な連携を深め、子どもと親を支えるためによりきめ細やかで迅速な対応が必要です。

ウ 「都筑区地域が支える子ども達の居場所づくり事業川和 ‘いっしょにあ・る・く’」

・「都筑区こども家庭支援課」委託事業

「傾聴」を土台に少人数の家庭的な雰囲気の中で、子どもたちは学習に取り組み、支援者とアートクラフトやカードゲームで遊び、毎週決まった時間を「いっしょに」過ごすことで、子ども達の成長を地域の力で支えました。

エ 横浜市「都筑区青少年支援事業における通所支援業務」

・「横浜市こども青少年局 都筑区こども家庭支援課」委託事業

上記イとウの事業を利用する児童・生徒のうち、遠方に居住する者や小学校低学年等で施設への公共交通機関および徒歩等での安全な通所が困難な者に対して、車両等による通所支援を行ないました。

オ 不登校のこどもを抱える親のための活動

「親の集い&こどもの心を聴くための傾聴勉強会」を「不登校相談会」として、親の孤立を防ぐために、悩みを気軽に言葉にできる「場」を作り、コラージュワーク等も準備しました。個別相談では必要な情報提供や助言を行ないました。

・不登校支援団体として、主催神奈川県教育委員会、協力横浜市教育委員会の**教育委員会とフリースクール等による「不登校相談会」**では毎年個別相談を担当しています。

カ 「生きづらさを抱えたこども・青少年と家族のための相談事業」

・**神奈川県フリースペース等相談事業費補助金事業**（継続9年目）

20代から30代の青年の相談支援を充実させ、就労や人間関係の悩み等のキャリアカウンセリングを行いました。対面での相談以外に、電話、メール、オンライン面談等により、助言、他機関の紹介、情報提供等を行ない、発達障がい、ひきこもり、不登校、非行、精神保健、就労関係、学校関係、対人関係、家庭問題、児童福祉、健康問題、生活問題、外国に繋がる問題等を扱いました。また、増えている40代以上のひきこもり相談にも対応しました。

・継続9年目となる**相談事業の伴走型支援**では、数年間にわたり仕事や生活の相談を継続し20代から30代の**青年の人生を支える働き**で成果をあげてきました。

キ 「アーモンド凸凹コミュニティアートプロジェクト」

さまざまな素材を準備して居場所でのアート活動に取り入れました。青少年とシニアのために、木材、紙、プラスチック、オイル、ビーズ、墨、布等を素材にクラフト制作やイラスト制作を活発に行いました。アーモンドホープセンターには、子どもたちの描いたイラスト作品を展示しました。

コロナ禍で止まっていた**イタリアとの連携**が再開し、法人会員のアーティストユニット **Grimme Twins** とヨーロッパEUの **ERASMUS + (エラスムス プリュス) 教育アートプロジェクト**に参加しました。今回は不登校、ヤングケアラー、ひとり親家庭等の生きづらさと孤立のリスクを抱える小中学生をサポートする法人支援スタッフ全員への教育研修プログラムとして参加しました。**インクルーシブ教育を土台とするアートとダイアログ（対話）の様々な活動**を、EUと日本をつないで進めていきます。

(3) 多文化共生の推進等に関する事業

「横浜に聴くプロジェクト」と「英語カフェ」の外部活動は休止中ですが、**横浜の歴史をテーマにオーラル・ヒストリー（口述歴史）プロジェクト**を計画し、来年度に向けて準備を進めました。

このプロジェクトは、2016年度の「多文化共生社会の実現と横浜の歴史・文化・市民をテーマとするプロジェクト」で、5代前の曾祖父からの家族史「横浜ヤンキー」の著者ヘルム氏を米国から招き、横浜市国際局長が挨拶に立った特別講演会「**多様性に関わられた多文化共生社会へ～横浜ヤンキーに聴く～**」の法人事業から発展してきた企画です。

(4) 障がい者支援の推進等に関する事業

子どもと大人の「発達障がい」の相談が増えています。障がい理解を支えながら、凸凹な個性を活かす活動を進めています。今年度も「都筑リビングラボ」（横浜市政策局）のメンバーとして都筑区北山田小学校個別支援級の保護者対象で「**傾聴と対話実践の面接**」を担当しました。

(5) 高齢者支援の推進等に関する事業

ア 「横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業『アーモンドカフェ〜スープの時間〜』」
「**傾聴と対話**」研修でトレーニングを受けた「**ACN 傾聴ボランティア**」が支援者となり、企画運営しています。

香味野菜を丸ごと煮出して作るスープストックに季節の食材を取り入れて化学調味料なしで調理したスープランチと、介護予防に資するプログラム（書やアート、クラフト作品づくり、簡単な体操、脳トレ、音楽等）を組み合わせて提供しています。60代から90代の高齢者が、栄養価の高いスープランチを楽しんでいます。

都筑区役所と東山田地域ケアプラザと都筑区社会福祉協議会との連携事業で、要支援の方の介護予防を主たる目的として、地域住民ボランティアが主体となって運営しています。

イ 「傾聴コミュニティ MY カフェ」

介護の悩み、不登校の悩み、仕事での悩み等を抱える人のために「**ACN 傾聴ボランティア**」が様々なお話を聴く活動で、傾聴によるこころの支援です。その後、法人の高齢者支援や不登校支援に繋がり、また専門機関で個別サポートを受けるケースがありました。

(6) コミュニティ活動の推進等に関する事業

「アーモンド・ヨガ」「書を楽しむ会」「アーモンド・パソコン講習」は不登校の10代から独り暮らし80代の地域住民が参加するコミュニティ活動で、身体の健康と心の豊かさの増進と新しい生活様式で必須のスマホやパソコン運用能力の向上のために開催しました。

外国籍の地域住民が「書を楽しむ会」に参加し交流する等で、「**多文化交流・多世代交流の場**」にもなっています。

(7) 上記の事業に関連する教育・学習・研修・啓発・相談に関する事業

＜講演会・セミナー・研修の増加＞で、内容は詳細に記載しました。

法人の事業に関連する教育・学習・研修・啓発・相談事業に、275日間で1007人の参加がありました。

<2023（令和5）年度の行政委託事業・助成金・補助金・寄附金・寄贈品と会員数等>

<行政機関の委託事業>

- ・横浜市こども青少年局
都筑区寄り添い型生活支援事業
12,674,191 円
- ・横浜市都筑区
地域が支える子ども達の居場所づくり事業
995,368 円
- ・横浜市都筑区 通所支援事業
3,421,000 円
- ・神奈川県教育委員会
令和5年度子どもの居場所づくり推進事業
340,000 円

- ・こども家庭庁
ひとり親家庭食品配布支援事業助成金
3,490,000 円

- ・(一社)デロイトトーマツウェルビーイング財団「子どもの教育分野奨学プロジェクト」
249,900 円

<寄付金>

- ・寄附個人 ……
- 個人寄付総額 3,489,127 円
- 個人寄付者延べ人数 397 名

<行政機関の補助金事業>

- ・生きづらさを抱えた子ども・青少年と家族のための寄り添い型相談事業～
神奈川県フリースペース等事業費補助金
750,000 円

- ・寄附団体 ……
- (株)コタニ興業 100,000 円
- 都筑ワイズメン&ウィメンズクラブ
10,000 円
- 横浜労働者福祉協議会子ども食堂寄附金
40,000 円

- ・アーモンドカフェ「スープの時間」
横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業
3,000,000 円

- 日本基督教団 田園江田教会
10,000 円

- ・横浜市こども青少年局こども家庭課
ヤングケアラー支援団体補助金事業
703,532 円

- (一社)生命保険協会 神奈川県協会
(横浜市健康福祉局こども青少年局推薦)
150,000 円

- ・神奈川県ひきこもり等支援団体支援金
80,000 円

- ウエイズトヨタ神奈川
「ウエイズまちいちファン」
50,000 円

- ・横浜市寄り添い型生活支援事業物価高騰
対策補助金 33,000 円

<会員数>

- ・正会員 25 名
- ・賛助個人会員 65 名
- ・賛助団体会員 2 団体
- 都筑ワイズメン&ウィメンズクラブ
(株)コタニ興業

- ・神奈川県高齢者居場所づくり等支援金
40,000 円

<助成金>

- ・都筑区社会福祉協議会ふれあい助成金
120,000 円
- ・都筑区社会福祉協議会年末助け合い助成金
50,000 円
- ・神奈川県福祉子ども未来局子ども食堂応援
事業協力金
120,000 円

<所属・参画ネットワーク>

- 全国子どもの貧困教育支援団体協議会
- 横浜子ども支援協議会
- (一社)ラシク045

令和五(2023)年度 法人事業開催日数と受益者数

受益者数 8212名

事業名	事業内容	開催日数	受益者延べ人数
子育て支援の推進等に関する事業	アーモンドフードパントリー(食品等提供活動)(フードバンクかながわ・社協・企業他)	75日	1216名
	アーモンドこども食堂	12日	272名
	こども家庭庁原資「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業助成」事業	64日	1992名
青少年の健やかな成長の推進等に関する事業	「フリースペース ともにあ・る・く」青少年支援事業	146日	484名
	「都筑区寄り添い型生活支援」横浜市委託事業	243日	1215名
	「都筑区地域が支える子ども達の居場所づくり」都筑区委託事業	46日	135名
	「都筑区青少年支援事業における通所支援」横浜市委託事業	307回	486名
	「不登校相談会・親の集いと傾聴勉強」不登校ひきこもり支援事業	12日	18名
	「横浜市ヤングケアラー支援団体補助金事業」横浜市補助金事業	8日	27名
	ICT教材「eboard」による学習支援	43日	46名
高齢者支援の推進等に関する事業	「プログラミング学習」支援	6日	29名
	「スープの時間」横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業	92日	1035名
コミュニティ活動の推進等に関する事業	「傾聴コミュニティMYカフェ」	21日	47名
	「アーモンド・パソコン講習」	10日	50名
	「アーモンド・ヨガ」	18日	83名
	「書を楽しむ会」	11日	59名
法人の事業に関連する教育・学習・研修・啓発・相談事業	「アーモンド凸凹コミュニティアートプロジェクト」	1日	11名
	「傾聴と対話の広場」研修会(北山田法人拠点 火曜)	13日	169名
	「対話のこぼれ実践ワークショップ」研修会(北山田法人拠点 金曜・日曜)	14日	155名
	「傾聴支援者養成研修」「傾聴と対話実践講演会」(外部組織より依頼)	13日	148名
	「生きづらさを抱えた子ども・青少年と家族のための相談事業」神奈川県補助金事業	212日	317名
	'ACN Dialogical Meetings in Social Networks'「Dialogueダイアローグ実践研修会」	4日	121名
多文化共生の推進等に関する事業	「不登校・子ども支援団体教育プログラム eDojo 職員スタッフ研修」	24日	97名
	「英語カフェ」「横浜に聴くプロジェクト」(休止中/令和6年度再開予定)	0日	0名
障がい者支援の推進等に関する事業	「障がいと傾聴セミナー」(休止中/令和6年度再開予定)	0日	0名

受益者数 8212名